

# 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
<input type="checkbox"/> 有	
<input checked="" type="checkbox"/> 無	

## 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	公民館改修事業(主要事業)							
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	生涯学習係	評価票作成者	生涯学習担当係長 奥村幸成
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			基本施策	生涯学習の推進	コード	4 1 1
	項	生涯学習の推進			単位施策(中)	生涯学習の拠点整備	コード	4 1 1 1
					単位施策(小)	中央公民館の改修	コード	4 1 1 1 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	生涯学習活動をする市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	市民のニーズに対応するため、老朽化の進む中央公民館の改修を進める			
1-5 事務事業の内容	生涯学習活動の多くは中央公民館及び、南部公民館に集中している。老朽化の進む中央公民館の改修を含め、子育て中の市民等の利用者の託児ルームなどの整備していく。(後期主要事業)							

## 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識		事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
	平成18年度	公民館利用者のニーズに対応し、中央公民館の改修や託児ルームの設置等を検討した。	幅広い層の市民が利用できるようにするため、老朽化の進む中央公民館の改修や、託児ルームの設置が必要となる。	市民意識調査で市民の生涯学習への関心の高さがうかがえ、活動拠点となる公民館の改修が望まれる。
	平成19年度			
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
平成27年度				

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	公民館利用件数(件)		2,450(件)	2,600(件)	公民館サークル、市外利用者等が活動の場として利用してもらえる件数を平成16年度に比して5年間で7ポイント程度高め、2015年までには合計14ポイント程度利用件数を高める目標値を設定した。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(件)	995									
	直接事業費 b(千円)	65,353									
	人件費 c(千円)	3,351									
	合計コスト d(b+c)(千円)	68,704									
単位コスト d/a(千円)	1件当たり 69	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費はアスベスト除去工事の工事費である。人件費は係担当の年度内の関わり(事務分担表と実績)から0.5人として18年度は算定した。(マニュアルによる平均人件費6,702千円)

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標対応実績(単位)	2,001(件)										
後期目標値に対する達成度(%)	76.9(%)										

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価	A										

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
  - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
  - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
  - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
  - 公共性(公が実施する意味があるか)
  - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
  - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
  - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
  - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	充実した生涯学習活動ができるよう、老朽化した中央公民館の改修、託児ルームの設置を望む人々が多くなることが予想され、改修、設置の検討を行う。	財政的に困難な時期でもあるため、継続して検討を行う。	公民館を活動拠点としている利用者等が増えているが、改修及び、託児ルームを設置する予算確保が厳しい時期にある。
平成19年度			
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度		
平成20年度		
平成21年度		
平成22年度		
平成23年度		
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		